

機関番号：34314

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720029

研究課題名（和文） 中国仏教美術における観仏思想と造形表現に関する研究

研究課題名（英文） The Relationship among Contemplations and Representations of Amitābha Buddha in the Chinese Buddhist Art

研究代表者

大西 磨希子 (ONISHI MAKIKO)

佛教大学・仏教学部・准教授

研究者番号：00413930

研究成果の概要(和文)：

本研究は、中国の仏教美術において、仏あるいは仏の浄土を“観る”という思想が、造形表現にいかなる影響を及ぼしたのかという問題について、阿弥陀の西方浄土に関わる作例を題材に調査と研究を行った。特に、初唐から北宋の敦煌莫高窟の西方浄土変に描かれた十六観図について『観無量寿経』の記述と照合し、分類と分析を試み、時代ごとの変遷を明らかにするとともに、それらを生み出した思想的・歴史的背景について考察を加えた。その作業の一環として、敦煌莫高窟・ベゼクリク石窟・キジル石窟を対象とした石窟関連資料のデータ整備を行い、「中国石窟データベース」として構築・公開した。また、敦煌の諸作例との比較から、日本に伝来する綴織当麻曼荼羅の図様が経典に厳密に合致している点について、関連する文献資料を収集し、その制作背景の分析を試みた。

研究成果の概要(英文)：

The purpose of this research is to study the relationship among the religious practice and the work of art in Chinese Buddhism. Focusing on the paintings of the Representation of the Sixteen Contemplations remained in the Dunhuang Mogao Caves, especially after the Tubo Period (786-848 CE), this research aim to 1) compare texts of sutra and actual paintings, 2) classify and analyze the paintings, 3) trace their changes over time, and 4) find out the causes and the historical background of the changes. The former researches have claimed that iconographical deviations from the scriptures in the Representation of the Sixteen Contemplations first appeared after the Tubo period. However, upon examination of the iconographical expression in the works, it is clear that the deviant depictions had already begun in High Tang and that the Tubo period only inherited it. Moreover, the disorder of scenes and the miscopied elements in the Representation of the Sixteen Contemplations show that at the time of the production literal texts like sutras were not referred and that it was transcribed from picture to picture rather lightheartedly. Besides the literal and iconographical research, we arrange the data of Buddhist Caves in China and publish a database (<http://dsr.nii.ac.jp/china-caves/index.html.en>).

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野:人文学

科研費の分科・細目:美学・美術史

キーワード: 美術史, 仏教美術, 敦煌, 莫高窟, 観想, 十六観, 当麻曼荼羅

1. 研究開始当初の背景

- (1) 観仏經典の一種である『観無量寿経』(以下『観経』)には、現実世界では見ることの難しい阿弥陀仏および西方浄土の姿をいかにして“観る”かが説かれており、それを絵画化したものが十六観図である。観難き仏や浄土をいかにして目にみえる形にあらわすかという、仏教美術の根幹にも関わる問題を考えるうえで、十六観図はその観仏思想と造形表現の関係を推し量る格好の題材といえる。
- (2) 中国における十六観図の遺例は南北朝時代後期から見られるが、数はごく少ない。一方、敦煌莫高窟には初唐から北宋(7~11世紀)の長期にわたって、百余例もの十六観図が現存する。それらを丹念に見ていくことで、敦煌という特定の場所における時代的変遷を明らかにすることが可能となる。
- (3) 唐代の十六観図の現存作例は、敦煌莫高窟に著しく偏っている。しかし、綴織当麻曼荼羅図は唐から日本に将来されたものと目され、特にその制作には宮廷工房の関与が想定されている。そこで、綴織当麻曼荼羅図に関する視点を取り入れることで、敦煌という一地点の状況だけにとらわれない、より総合的な理解に結び付けることができる。

2. 研究の目的

- (1) 中国の仏教美術において、仏あるいは仏の浄土を“観る”という思想が、造形表現にいかなる影響を及ぼしたのかという問題について、現存作例が集中する敦煌莫高窟の壁画や絹本画を中心とする作品研究と、関連する文献研究によって、実作例に則して浮き彫りにすることを目的とした。
- (2) 具体的には、特に西方浄土変に付属する十六観図を題材に、初唐から北宋までの諸

作例を実地調査し、図像研究の基礎となる資料を収集し、『観経』経文との照合や、経文に合致しない図像の抽出を通して、敦煌十六観図の全体像を提示し、その変遷を明らかにすることを目指した。

- (3) また、唐代に登場する新種の大画面西方浄土変は、阿弥陀仏およびその浄土を観ることの実践と密接に関連し、大きく発展・流布したものと考えられる。しかし、敦煌莫高窟の現存作例では、盛唐期においてすでに本来の観想とはかけ離れた作例が多数生み出されている。なぜこうした現象が生じるにいたったのかについて、莫高窟の中唐以降の作例や、日本伝来の綴織当麻曼荼羅図をも視野に含め考察することにより、制作の実態や思想的背景の点から解き明かすことを試みた。

3. 研究の方法

- (1) 敦煌莫高窟の中唐以降の作例を中心に、十六観図の実地調査を行い、調査ノートとスケッチにもとづく描き起こし図を作成する。
- (2) 調査ノートと描き起こし図にもとづき、①『観経』経文との対応関係、②図像の配列、③画面形式、④『観経』とは合致しない特殊な図像、の諸点で分類を行う。
- (3) 敦煌が吐蕃の支配下に入る中唐期以降の状況について、莫高窟壁画や蔵経洞発現の白描画、僧尼録等の関連研究を整理・検討し、中唐期以降の敦煌十六観図の変遷の背景を考察する。
- (4) 綴織当麻曼荼羅図が『観経』に極めて忠実である点について、作品の技術的特徴をふまえ、その制作に携わった組織や、制作の目的から検討を加え、関連する文献資料を収集する。

(5) 研究を効果的に進め、かつ研究成果の公開方法の場を設けるため、莫高窟を主とする中国石窟関連の画像データと文字データを収集し、データベースとして整備・公開する。

4. 研究成果

- (1) 敦煌莫高窟の中唐以降の 11 窟(第 15 窟、第 92 窟、第 118 窟、第 134 窟、第 144 窟、第 145 窟、第 154 窟、第 180 窟、第 197 窟および付属窟、第 237 窟)について、十六観図の調査を実施し、未刊行の十六観図 9 点について図像研究のもととなる描き起こし図を作成した。その結果、これまでに得られた敦煌の十六観図は、海外流出の蔵経洞将来絹本画を含め計 64 点にのぼり、現存する敦煌十六観図の 7 割をカバーすることができた【論文①】。
- (2) 中唐吐蕃期の敦煌十六観図は、基本的に盛唐期の図像を継承し、とりわけ『観経』から逸脱した図像を多分に含んだ、図案的で簡略な系統の図のみを受け継いで転写されたものであることが明らかとなった【学会発表④】。
- (3) 敦煌では十六観図の『観経』からの乖離はすでに盛唐期から始まり、それが中唐から晩唐さらに北宋、すなわち吐蕃期から帰義軍期にいたるまで受け継がれ、時代が下るほど乖離現象が進んでいることが、具体的に跡づけられた。これは十六観図の転写方法に由来すると考えられ、図像の転写にあたって『観経』等のテキストが参照されることはなく、専ら先行する作例や粉本をもとに、図から図へ写されていったこと、さらに、そのために写し崩れや形の読み替えが生じ、結果として十六観としての意味をなさない図像が多数混在するにいったと考えられる【論文①】。
- (4) 一方、綴織当麻曼荼羅は、敦煌の諸作例とは異なり、標準作例として、高僧の指導のもと、宮廷工房が制作したものと推測される【学会発表③、論文②】。この宮廷工房における織

成像すなわち綴織による一種の仏画的作品の制作については、隋代から文献上に記載がみられ、綴織当麻曼荼羅は唐代の諸州官寺制のもと、全国に頒布される目的で制作されたものの一つである可能性が見えてきた【学会発表②】。この成果については、現在執筆中である。

- (5) 敦煌莫高窟について、ペリオ敦煌図録(*Les Grottes de Touen-Houang*)とスタインによる調査報告書(*Serindia, The Thousand Buddhas*)所載の画像データを収集し、現在の石窟番号等、複数存在する石窟番号との対応関係を明らかにし、検索の便を図ったデータベースを作成した【その他⑤】。併せて、ベゼクリク石窟とキジル石窟についても、同様の手法で、スタイン、グリュンヴェーデル、ル・コックの調査報告書から画像データを収集し、探検隊ごとに異なる石窟番号と現行番号との対応関係を整理したうえで、「中国石窟データベース」として整備・公開した【その他⑤】。
- (6) 「中国石窟データベース」のデータ収集およびデータ整理の過程で、スタインの調査報告書やペリオ図録には、キャプションや石窟分布図に誤りが含まれることが判明した【論文③】。ただし、現状のデータベースでは画像データの原著のキャプションを修正することはしておらず、ウェブサイト上でどのように修正するかについては今後の検討課題とする予定である。
- (7) 「中国石窟データベース」に関連し、ペリオ図録に収載される各図版に対する敦煌研究院の若手研究者による解説文を「ペリオ敦煌図録図版解説」【その他⑥】として入力し、公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

- ① 大西磨希子「中唐吐蕃期の敦煌十六観図」『仏教学部論集』95, 2011, pp.1-20. 査読無
 - ② 大西磨希子「唐代西方浄土變の成立と流布」『第 13 回日中佛教学術交流会議発表論集』2010, pp.57-68. 査読無
 - ③ 大西磨希子「中国石窟関連資料データベースの構築と公開—国立情報学研究所デジタル・シルクロード・プロジェクト「中国石窟データベース」—」『奈良美術研究』10, 2010, pp. 53-68. 査読無
 - ④ Kinji ONO, Asanobu KITAMOTO, Makiko ONISHI, Elham ANDAROODI, Yoko NISHIMURA, and Mohammad Reza MATIN, Memory of the Silk Road -The Digital Silk Road Project-. Proceedings of the Conference on Virtual Systems and Multimedia (VSMM08), Vol. Project Papers, 2008, pp. 437-444. 査読有
- [学会発表](計 6 件)
- ① 大西磨希子「唐代西方浄土變に及ぼせる善導の影響」2011年2月23日, 佛教大学総合研究所公開研究会「善導とその周辺—法然浄土教の淵源として—」(佛教大学)
 - ② 大西磨希子「綴織当麻曼荼羅図をめぐる一考察—唐の諸州官寺制との関係—」2011年2月12日, 平成22年度仏教文化研究会(佛教大学)
 - ③ 大西磨希子「唐代西方浄土變の成立と流布」2010年10月29日, 第13回日中佛教学術交流会議(佛教大学)
 - ④ 大西磨希子「吐蕃時期的敦煌西方浄土變—以十六観図為中心—」2010年7月21日, 2010 敦煌論壇:吐蕃時期敦煌石窟芸術研究国際研討会(中国・敦煌研究院)
 - ⑤ Yoko NISHIMURA, Makiko ONISHI, Asanobu KITAMOTO, Analysis and Assessment of Stein Maps Using Google Earth. 2009年8月26日, International Conference of Historical Geographers. (京都大学)
 - ⑥ 西村陽子, 大西磨希子, 北本朝展「利

用 Google Earth 分析与評価斯坦因地図」2008年10月21日, 第三届吐魯番学国際学術研討会(新疆吐魯番学研究院・新火州大酒店)

[図書](計 1 件)

- ① 大西磨希子(部分執筆)「略奪と文化財保護」奈良康明・石井公成編『新アジア仏教史 05 中央アジア文明・文化の交差点』佼成出版社, 2010年, pp.114-118.

[産業財産権]

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

[その他](計 6 件)

- ① 大西磨希子(講演)「中国の仏教美術—中国式仏像の誕生—」2011年2月18日, 佛教大学四条センター公開講座 佛教入門講座(佛教大学)
- ② 大西磨希子「当麻寺綴織当麻曼荼羅図」『週刊朝日百科 国宝の美』9, 2009, pp.14-17.
- ③ 大西磨希子「証空」『週刊朝日百科 国宝の美』9, 2009, pp.18-19.
- ④ 大西磨希子「当麻曼荼羅を読み解く」『週刊朝日百科 国宝の美』9, 2009, pp.20-21.

ホームページ等

- ⑤ 「中国石窟データベース」
<http://dsr.nii.ac.jp/china-caves/>
- ⑥ 「ペリオ敦煌図録図版解説」
<http://dsr.nii.ac.jp/reference/pelliot/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

大西 磨希子(ONISHI MAKIKO)

佛教大学・仏教学部・准教授

研究者番号:00413930

(2)研究分担者

(3)連携研究者